



# クラスタへの Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェアの導入

リリース 3.10.1 から、Cisco Nexus Data Broker (NDB) の名前は、Cisco Nexus Dashboard Data Brokerに変更されました。ただし、GUIおよびインストールフォルダ構造と対応させるため、一部のNDBのインスタンスがこのドキュメントには残されています。NDB/Nexus Data Broker/Nexus Dashboard Data Brokerという記述は、相互に交換可能なものとして用いられています。

この章には、次の詳細が含まれています。

- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール](#) (1 ページ)
- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード](#) (3 ページ)
- [HA クラスタ化コントローラの TLS が有効になっているアプリケーションソフトウェアのアップグレード](#) (6 ページ)

## Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール

Cisco Nexus Dashboard Data Broker (NDDB) クラスタをインストールするには、次の手順に従います。

### 始める前に

前提条件 :

- Cisco Nexus Dashboard Data Broker (NDDB) は、3 ノード クラスタをサポートします。
- すべての IP アドレスは、到達可能で、相互に通信できる必要があります。
- クラスタ内のすべてのスイッチは、すべてのコントローラに接続する必要があります。
- すべてのコントローラは、同じ HA クラスタリング設定情報を config.ini ファイルに持つ必要があります。

## Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール

- ・クラスタを形成するには、すべての NDBD インスタンスが同じ NDBD バージョンである必要があります。
- ・クラスタ パスワードを使用する場合、すべてのコントローラは同じパスワードを **ndbjgroups.xml** ファイルに設定する必要があります。HA クラスタのパスワード保護セクション (*Cisco Nexus Dashboard Data Broker Configuration Guide*) を参照してください。



(注)

クラスタを形成するすべての NDBD インスタンスは、同じ NDBD バージョンである必要があります。

### 手順

- ステップ 1** Web ブラウザで、www.cisco.com に移動します。
- ステップ 2** 下方向へスクロールして、[ダウンロード (Downloads)] をクリックします。
- ステップ 3** [製品の検索 (Select a Product)] 検索ボックスに 「Nexus Dashboard Data Broker」 と入力すると、最新リリースの[ソフトウェアダウンロード (Software Download)] 画面が自動的に表示されます。  
リリース 3.10.5 のファイル情報 : Cisco Nexus Data Broker ソフトウェア アプリケーション : [ndb1000-sw-app-k9-3.10.5.zip](#) が表示されます。
- ステップ 4** Cisco Nexus Data Broker アプリケーションバンドルをダウンロードします。入力を求められたら、Cisco.com のユーザー名およびパスワードを入力して、ログインします。
- ステップ 5** Data Brokerをインストールする予定の Linux マシンにディレクトリを作成します。  
たとえば、ホームディレクトリに、CiscoNDB を作成します。
- ステップ 6** 作成した NDBD ディレクトリに Cisco Nexus Data Broker の zip ファイルをコピーします。
- ステップ 7** Data Broker の zip ファイルを解凍します。  
Data Broker ソフトウェアが `ndb` というディレクトリにインストールされます。ディレクトリには、次の内容が含まれます。
  - `runndb.sh` ファイル : NDBD を起動するためのファイル。
  - `version.properties` ファイル : NDBD ビルドバージョン。
  - 構成ディレクトリ : NDBD 初期化ファイルが含まれています。このディレクトリには、構成が保存されている `startup` サブディレクトリが含まれます。
  - `bin` ディレクトリ : 共通 CLI を含む NDBD ファイルが含まれています。
  - `etc` ディレクトリ : プロファイル情報が含まれています。
  - `lib` ディレクトリ : NDBD Java ライブラリが含まれています。
  - `logs` ディレクトリ : NDBD ログが含まれています。

(注)

logs ディレクトリは、NDBD アプリケーションの起動後に作成されます。

- plugins ディレクトリ : NDBD プラグインが含まれるディレクトリ。
- work ディレクトリ : Web サーバーの作業ディレクトリ。

**ステップ 8** ソフトウェアをインストールしたときに作成された `ndb/configuration` ディレクトリに移動します。

**ステップ 9** 任意のテキストエディタを使用して `config.ini` ファイルを開き、次のテキストを見つけます。

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
# supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>

If a standby node is available:
#supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>;<ip4>-standby
```

**ステップ 10** スーパーノードで構成される行のコメントを外し、`<ip*>` を NDBD サーバーの IP で置き換えます。

```
IPv4 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=10.1.1.1;10.2.1.1;10.3.1.1

IPv6 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=2001:22:11::1;2001:33::44::1;2001:55:66::1
```

**ステップ 11** ファイルを保存し、エディタを終了します。

**ステップ 12** NDBD がインストールされているすべての Linux マシンで、手順 5 から 11 を繰り返します。

**ステップ 13** `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDBD サーバーを起動します。

**ステップ 14** プライマリ NDBD サーバーの GUI が起動したら、`./runndb.sh -start` コマンドを使用して他の NDBD サーバーを起動します。

プライマリが起動したら、GUI に表示される確認メッセージを待ってから、クラスタのメンバーを起動します。表示されるメッセージには、プライマリの準備ができており、メンバーを起動しますという意味のメッセージが表示されます。

## Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード

### 始める前に

#### 前提条件 :

- Cisco Nexus Dashboard Data Broker (NDBD) は、3 ノード クラスタをサポートします。

## Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード

- すべての IP アドレスは、到達可能で、相互に通信できる必要があります。
- クラスタ内のすべてのスイッチは、すべてのコントローラに接続する必要があります。
- すべてのコントローラは、同じ HA クラスタリング設定情報を config.ini ファイルに持つ必要があります。
- クラスタを形成するには、すべての Nexus Dashboard Data Broker インスタンスが同じ Nexus Dashboard Data Broker バージョンである必要があります。
- クラスタ パスワードを使用する場合、すべてのコントローラは同じパスワードを **ndbjgroups.xml** ファイルに設定する必要があります。 *Password Protecting for HA Clusters* のセクション (*Cisco Nexus Data Broker Configuration Guide*) を参照してください。



(注)

クラスタを形成するすべての Nexus Dashboard Data Broker インスタンスは、同じ Cisco Nexus Dashboard Data Broker バージョンである必要があります。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Nexus Dashboard Data Broker プライマリ サーバーにログインします。
- ステップ 2** [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Administration)] に移動します。
- ステップ 3** [ローカルでバックアップ (Backup Locally)] をクリックして、構成ファイルをダウンロードします。
- ステップ 4** **runndb.sh -stop** コマンドを使用して、すべての Cisco Nexus Dashboard Data Broker インスタンスを停止します。
- ステップ 5** NDBD サーバーと NDBD デバイスの間で TLS 証明書が有効になっている場合は、/xnc/configuration の tlsTrustStore および tlsKeyStore ファイルのバックアップを作成します。
- ステップ 6** すべての NDBD クラスタインスタンスで前の手順を実行します。
- ステップ 7** Web ブラウザで、www.cisco.com に移動します。
- ステップ 8** [サポート (Support)] > [製品 (Products)] > [ダウンロード (Downloads)] に移動します。
- ステップ 9** 製品とダウンロードの検索ボックスに「Nexus Data Broker」と入力し、検索応答リストから「ダウンロード (Downloads)」をクリックします。  
リリース 3.10.5 のファイル情報 : Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェア アプリケーション : **ndb1000-sw-app-k9-3.10.5.zip** が表示されます。
- ステップ 10** Cisco Nexus Dashboard Data Broker のアプリケーションバンドルをダウンロードします。入力を求められたら、Cisco.com のユーザー名およびパスワードを入力して、ログインします。
- ステップ 11** Cisco Nexus Dashboard Data Broker をインストールする予定の Linux マシンにディレクトリを構築します。たとえば、ホームディレクトリに Cisco Nexus Dashboard Data Broker を構築します。
- ステップ 12** Cisco Nexus Dashboard Data Broker の zip ファイルを、構築したディレクトリにコピーします。
- ステップ 13** Cisco Nexus Dashboard Data Broker の zip ファイルを解凍します。

Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェアは、`ndb` というディレクトリにインストールされます。ディレクトリには、次の内容が含まれます。

- `runndb.sh` ファイル : NDDB を起動するためのファイル。
  - `version.properties` ファイル : NDDB ビルドバージョン。
  - 構成ディレクトリ : NDDB 初期化ファイルが含まれています。このディレクトリには、構成が保存されている `startup` サブディレクトリが含まれます。
  - `bin` ディレクトリ : NDDB 共通 CLI を含む NDDB ファイルが含まれています。
  - `etc` ディレクトリ : プロファイル情報が含まれています。
  - `lib` ディレクトリ : NDDB Java ライブラリが含まれています。
  - `logs` ディレクトリ : NDDB ログが含まれています。
- (注)  
`logs` ディレクトリは、NDDB アプリケーションの起動後に作成されます。
- `plugins` ディレクトリ : NDDB プラグインが含まれるディレクトリ。
  - `work` ディレクトリ : Web サーバーの作業ディレクトリ。

**ステップ 14** ソフトウェアをインストールしたときに作成された `ndb/configuration` ディレクトリに移動します。

**ステップ 15** 任意のテキストエディタを使用して `config.ini` ファイルを開き、次のテキストを見つけます。

**ステップ 16** 次のテキストを探します。

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
# supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>

If a standby node is available:
#supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>;<ip4>-standby
```

**ステップ 17** スーパーノードで構成される行のコメントを外し、`<ip*>` を NDDB サーバーの IP で置き換えます。

```
IPv4 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=10.1.1.1;10.2.1.1;10.3.1.1

IPv6 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=2001:22:11::1;2001:33::44::1;2001:55:66::1
```

**ステップ 18** ファイルを保存し、エディタを終了します。

**ステップ 19** NDDB がインストールされているすべての Linux マシンで、手順 7 ~ 18 を繰り返します。

**ステップ 20** `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDDB サーバーを起動します。

**ステップ 21** プライマリ NDDB サーバーの GUI が起動したら、`./runndb.sh -start` コマンドを使用して他の NDDB サーバーを起動します。

**ステップ 22** プライマリ サーバーの NDDB GUI にログインします。

## ■ HA クラスタ化コントローラの TLS が有効になっているアプリケーションソフトウェアのアップグレード

**ステップ 23** (3.9.x リリーストレインに適用) TLS 設定が使用可能な場合は、TrustStore と KeyStore ファイルを構成 フォルダに移動します。

### 重要

3.9.2 からアップグレードする場合、バックアップファイルには TLS ファイルが含まれています。

`tlsconf`、`tlsKeyStore`、`tlsTrustStore` ファイルはバックアップの一部です。

リリース 3.10.x または 3.9.0 からアップグレードする場合、バックアップファイルには `tlsTrustStore`、`tlsKeyStore` ファイルは含まれません。バックアップを復元する前に、`/ndb/configuration` フォルダにファイルを手動でアップロードする必要があります。移動するファイルは、処理する前に「`tlsKeyStore`」と「`tlsTrustStore`」という名前が付けられています。

**ステップ 24** [管理 (Administration)]>[バックアップ/復元 (Backup/Restore)]>[アクション (Actions)]>[ローカルで復元 (Restore Locally)]に移動し、以前にダウンロードした構成をアップロードします。

**ステップ 25** `./runndb.sh -stop` コマンドを使用して、クラスタ内の NDB のすべてのインスタンスを停止します。

**ステップ 26** `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDB サーバーを起動します。

プライマリが起動したら、GUI に表示される確認メッセージを待ってから、クラスタのメンバーを起動します。表示されるメッセージには、プライマリの準備ができており、メンバーを起動しますという意味のメッセージが表示されます。

プライマリが起動すると、メンバー サーバーの TLS ファイルが NDB コントローラによって同期されます。

**ステップ 27** `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、メンバー NDB サーバーを起動します。

## HA クラスタ化コントローラの TLS が有効になっているアプリケーションソフトウェアのアップグレード

HA クラスタ化コントローラで TLS 証明書が有効になっている場合に、GUI を使用して Nexus Dashboard Data Broker (NDB) アプリケーション ソフトウェアを集中モードでアップグレードするには、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ 1** <https://server IP:8443> にアクセスして、既存の NDB GUI インスタンスにログインします。

**ステップ 2** [管理 (Administration)]>[バックアップ/復元 (Administration)]タブに移動します。

**ステップ 3** [ローカルでバックアップ (Backup Locally)]をクリックして、構成を zip ファイルとしてダウンロードします。

**ステップ 4** `./runndb.sh -stop` コマンドを使用して、現在の NDB インスタンスを停止します。

- ステップ 5** NDDB インスタンスが停止したら、/ndb/configuration フォルダに移動し、tlsTrustStore および tlsKeyStore ファイルを local/common フォルダにコピーします。
- ステップ 6** 標準の Cisco.com のダウンロードページから NDDB 3.10.5 ソフトウェアをダウンロードし、config.ini ファイルの「supernodes」構成を使用してクラスタモードを設定し、すべてのコントローラで ./runndb.sh -start コマンドを使用して新しい NDDB 3.10.5 クラスタを起動します。。
- ステップ 7** (3.9.x リリーストレインに適用) TLS 設定が使用可能な場合は、TrustStore と KeyStore ファイルを構成 フォルダに移動します。

**重要**

3.9.2 からアップグレードする場合、バックアップファイルには TLS ファイルが含まれています。

tlsconf, tlsKeyStore, tlsTrustStore ファイルはバックアップの一部です。

リリース 3.10.x または 3.9.0 からアップグレードする場合、バックアップファイルには tlsTrustStore、tlsKeyStore ファイルは含まれません。バックアップを復元する前に、/ndb/configuration フォルダにファイルを手動でアップロードする必要があります。移動するファイルは、処理する前に「tlsKeyStore」と「tlsTrustStore」という名前が付けられています。

- ステップ 8** プライマリコントローラで、[管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] タブに移動します。
- ステップ 9** [ローカルに復元 (Restore Locally)] をクリックして、先ほどダウンロードした設定ファイル（上記のステップ 3）をアップロードします。
- 設定が正常にアップロードされると、GUI に成功メッセージが表示されます。
- ステップ 10** ./runndb.sh -stop コマンドを使用して、すべてのコントローラで NDDB 3.10.5 インスタンスを停止します。
- ステップ 11** ./runndb.sh -start コマンドを使用して、プライマリ NDDB サーバーを起動します。
- 数分待ちます。準備完了 (ready) メッセージが表示されます。
- プライマリが起動すると、メンバーサーバーの TLS ファイルが NDDB コントローラによって同期されます。
- ステップ 12** ./runndb.sh start コマンドを使用して、クラスタの他のコントローラで NDDB インスタンスを起動します。

■ HA クラスタ化コントローラの TLS が有効になっているアプリケーションソフトウェアのアップグレード

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。